

## 県立高等学校の配置の方向性について (第8回会議における主な意見)

末尾に感想等を記述。・・・赤岡

### 学校配置に関する主な意見

(基本的な考え方)

- ①県内全ての生徒が学びたいことを学ぶことができるような環境を整備することが必要である。そのため、県内をいくつかのブロックに分けて学校の配置を考えるべきである。  
ブロックの分け方は、市町の区域や過去の通学区域(学区)などを参考にしつつ、普通科や専門学科などの学科や中高一貫教育校など学校の種類によって異なる場合もあるのではないかと。

(中山間地域・島嶼部の学校配置)

- 小規模校の活性化のためには、学校が設置された②地域の支援のもとで学校の特色づくりを進めることが不可欠である。  
他県では、地域ごとに協議会や懇談会などを設け、地域と一緒に学校づくりを考え、地域の力が生かされた魅力ある学校づくりが行っている事例があることを参考に検討することが考えられる。
- ③中山間地域・島嶼部では、他の地域からも生徒が集まる学校づくりを進める必要がある。例えば、自然を生かした教育により、豊かな人間性や優れた資質を備えた、医師、教員などの人材を育成する学校を検討することが考えられる。その際、宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校において、全寮制で地域の自然を生かした教育活動を行っていることも参考に、地域の支援を受けながら、中高一貫教育を実施することを視野に入れて検討することが考えられる。
- ④地域の伝統工芸や伝統芸能などに特化した学科等を設置し、伝統工芸や伝統芸能などを受け継ぐ地域の人材を活用した教育を行う学校づくりを検討することが考えられる。
- 生徒が国際競争力を身に付けるという観点から、⑤海外からの留学生の受け入れなどを行う地域と協力して、留学生に囲まれて学ぶことができる、インターナショナルな学校づくりを検討することが考えられる。その際、寮や寄宿舎の活用も視野に入れて検討することが考えられる。

(都市部の学校配置)

- 生徒急増期に新設した学校が、生徒減少期の現在もその学校数を維持している。今後も生徒数の減少が見込まれており、⑥交通の利便性が高い都市部においては、統廃合を検討する必要がある。
- 高等学校には、発達障害のある生徒も在籍しており、⑦こうした生徒に対するケアの充実も必要である。生徒数が減少し、空き教室が生じている高等学校を活用して特別支援学校高等部などを設置するなども、新しいタイプの学校の在り方として検討することが考えられる。

## 適正な学校規模に関する主な意見

- 中山間地域・島嶼部の小規模校では、豊かな自然に囲まれた学習環境や少人数による指導などのメリットを生かしていくことができること、さらには、⑧様々な事情から、地域の高校に進学するしか選択肢がない子どもたちもいることなどから、学校を残してほしい。  
学校を活性化し、残すことができるよう、大胆な学校の魅力づくりを進める必要がある。
- 都市部から中山間地域・島嶼部の高校に入学して、少人数での学校生活を送るということがあってよい。学校の特色づくりは、小規模校は小規模校なりの、大規模校は大規模校なりのメリットを打ち出すことが考えられる。＜⑨効率確保の方法の工夫が必要>
- 限られた人的資源の中で、生徒の学習や学校生活へのニーズに応えるため、また教員の自校内での日常的な研鑽や校外の研修への参加などによる資質・能力の向上を図るために、一定以上の学校規模を確保することが重要である。  
ただし、適正な学校規模の在り方については、全ての高校を一律に考えるのではなく、交通の便や周辺地域における生徒の受け入れ態勢など、当該地域の実態を勘案して考える必要がある。
- 小規模校の特色づくりの結果、生徒の教育環境や教員の資質向上のために必要な学校規模を維持できない場合には、求められる人材を育成する観点から、統廃合を行うこともやむを得ない。⑩

## 普通科・専門学科・総合学科の比率に関する主な意見

- 専門学科において、高等学校卒業後、大学等への進学者が多くなってきている。こうした状況を踏まえ、専門学科の入学定員や配置する校数の在り方について検討する必要がある。  
その際、専門学科の学級規模について、教員の資質や技術力の維持・向上が図れるかという観点を踏まえる必要がある。

### <協議会への感想>

全体として

①から⑧は非常に大事な点を指摘しており、こういう意見のでる協議会を運営された会長・事務の準備に敬服しています。

個別の感想等

③④ これらは実現にむけて検討していただけると大変いいと思う。

島根県から芸北分校に神楽で入学する生徒がいると聞いている。

⑤ 是非実現していただきたいと思う。

⑥ 都市部は交通の便があるから、都市部こそ統合の適地だというのは説得力があると思う。  
ここで縮減できる教育資源を、③から⑤ ⑦から⑨の実現の原資としていただけないか。

⑨については、遠隔講義システムを活用すれば、効率よく小規模校を残せるのではないか。いくつかの科目は対面で行い、他は優れた授業の評価の高い教員の本務校での授業を配信。

受信側の教員か教員補助がいると、むしろ理解しやすくなる。生徒の理解力に差があるときは、受信後、追加説明したり、生徒のわかりにくかった点をフォローしたりでき、効果がむしろあがる。

これは実際の経験に基づいている。

受信側の教員への簡略でも効果をあげるための方法について研修があると大変いい。

⑩ この説明はよくわかるが、統合はやむを得ないという言い方より、②③④⑤等の必要で優れた教育、理想的な教育を実現するための原資を生み出すためという積極的意義を強調してほしい。

ついでにいえば、中学のとき、「ぐれて」いて高校進学をしなかった若者が、多くの人に励まされ、定時制校（三次）に進み、そこでも親切な暖かい指導をうけ卒業し、本学に入学、いい成績で卒業し病院に就職したケース（新聞報道がある）や、大手町商業の夜間をでた学生が成績優秀で表彰したこともある。

これらの例で、広島の定時制高校とそれを支援する市民の存在に感動した。これらの数倍の人数の若者の人生に希望を与えていることはずであることを伝えていただきたい。

資料番号 2

朱書の語句、文章を追加していただきたいと考えます。

1 ページ I-1-(1)

・・・豊かな自然、全国的に貴重な伝統文化の宝庫、西日本・・・

2 ページ 2-(2)

定時制・通信制課程によりはじめて幸せな人生が開かれた人もおり、その人々により広島の社会も恩恵をうけている。その良さを強化するためにも、様々な事情や・・・充実させることが重要である。

「重要である。」は、原文のままにすることも考えられる。

4 ページ (3) の前に、つぎのようなことが書けないでしょうか。

高等学校の配置、規模の在り方を考えるとき、県内大学との協力の行い方を検討することを視野にいれることが望まれる。

これを入れたい理由

中山間地では、神楽や陶芸、工芸、地域食など伝統芸能、伝統工芸、地域文化等、また海洋観光・レジャー振興を研究教育する大学のサテライト・キャンパスを大学が設置運営して、これらを特色としようとする高校があれば、それと接続すると、効果があげやすいと考えます。また、これは、インターナショナル学校づくりにも生かせるようにも思います。

私は、鯉城会館の大学サテライトに集まり連携する大学と協力してその方向を探りたいと考えていますし、実現性はあると思っています。

ただし、大学までいれるのは、この協議会の報告では問題が多いのであれば、上の文章にはこだわりませんが、このようなことは、広島では、できそうに思います。

また、上は、広島や広島の高校について知識の乏しい私の希望や意見でありますので、全体のバランスや他への配慮等から、どう扱うかは、会長と事務局に一任します。

最後に、協議会でいろいろ有益ですばらしい意見をおききできました。それを大学経営にも生かしています。協議会に参加できたことは幸せでした。皆様にお礼申し上げます。

赤岡 功